

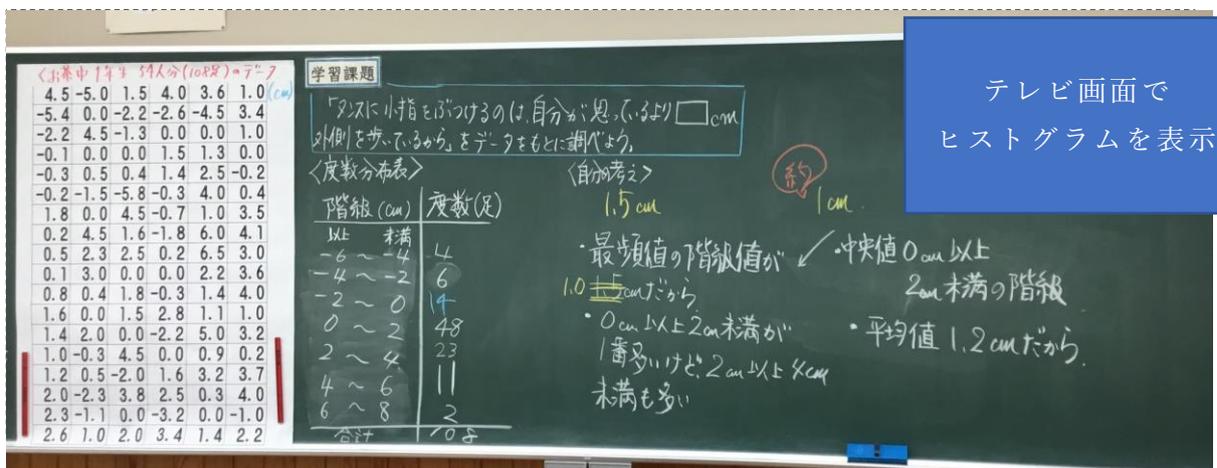
お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園・授業者：盛岡市立厨川中学校・稲垣道子
2. 学年・教科等・単元等：中学校第1年・数学科・「資料の分析と活用」
3. 基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校
4. 基にした実践：「小指ギャップ」

〔 お茶の水女子大学附属中学校・藤原大樹教諭が平成30年度「花巻市学力向上推進事業算数・数学研修会」で実施した授業の学習指導案 〕

5. 実践の概要

授業は平成31年3月7日（木）に実施した。ねらいは、実生活での経験についてヒストグラムや代表値をもとに解決し、社会と数学のつながりを実感させることである。基にした実践との違いは1点、単元の後半に学習したことである。学習した代表値をもとに考えを記述させたいと考えた。



6. 実践してみた感想など

小指をぶつけたことのある生徒は9割にもものほり、興味をもって学習していた。最頻値を用いた生徒が多かったが、平均値をヒストグラムから計算した生徒もあり、自分なりに根拠を見つけて考えを記述していた。しかし、出た考えを吟味するところまでいかず、その代表値を用いる妥当性や、不足する部分を補うには至らなかった。ヒストグラムをかくまでの部分をスムーズに行う必要があった。生徒の振り返りの中に「学習したことを使って普段の体験を調べることができ、苦手な数学も頑張ろうと思った」などの記述があり、数学の良さを実感させられる実践で、とても勉強になった。